

平成 29 年 12 月 5 日
一般社団法人公立大学協会

「共通テスト」の英語試験に係る認定試験等の利用の考え方

平成 33 年度入試から導入される「共通テスト」の英語試験については、資格・検定試験（以下、認定試験という）を活用し、平成 36 年度入試までは「共通テストと認定試験のいずれか、又は双方を選択利用すること」が可能とされました。

このことについて、公立大学協会では以下のとおり考え方の整理を行っております。

- 公立大学における認定試験等の利用方法については、あくまでもそれぞれの公立大学の判断に従うものである。
- その上で、国公立大学の共通枠組みである分離分割方式で入試を実施していることを踏まえ、受験生の混乱を最小限に収めるためには、国公立大学共通の対応として、共通テストと認定試験の双方を利用することが望ましい。

以上

英語民間試験活用のための「大学入試英語成績提供システム」
の導入見送りについて（会長コメント）

2019年11月5日

一般社団法人 公立大学協会

会長 鬼頭 宏（静岡県立大学長）

今般、英語民間試験活用のための「大学入試英語成績提供システム」について、2020年度からの導入を見送り、延期することが、極めて唐突な形で文部科学大臣より示されました。公立大学は、この度の入試改革を前向きに受けとめ、受験生に対して混乱を与えないよう配慮しながら準備を進めてきました。このような突然の決定には、驚きを禁じえません。

公立大学は急ぎ、既に予告している入学者選抜方法の内容を見直さなければなりません。受験生を第一に考え、高校及び大学の現場の混乱がさらに深まることのないよう、迅速に今後の方針を示すことを文部科学省に対して強く求めます。

公立大学協会としても、情報を収集しながら順次対応を進めていきますが、大学改革が確かな見通しのないままに進むことのないよう、公立大学の使命と役割に即して考えなおす必要性を強く感じていることを申し添えます。

以上

(参考)

公立大学における英語の資格・検定試験活用の有無について（一般選抜）

	活用する	活用しない
導入見送前 10/31 まで	78 大学	13 大学
導入見送後 11/1 以降	1 大学 (一部の学部で活用)	90 大学 (全学部で活用しない)

令和元年 11 月 18 日～12 月 24 日に公立大学協会会員校へ照会
「大学入学者選抜改革に関する検討状況について」（91 大学から回答あり）

(参考) 入学者選抜改革に関する会員校からの意見等

一般社団法人公立大学協会

「高大接続システム改革及び入学者選抜における記述式試験の状況に関する照会」への回答（抄）
平成28年12月19日・66大学より回答あり

1. 入学者選抜改革への意見

(1) 英語における外部検定試験の活用について

- 活用する外部検定試験の具体例としてあげられているTOEFL等が、高校学習指導要領とどのように摺り合わされるのか、未だに明確な説明がない。
- 民間資格・検定試験の積極的活用を打ち出しているが、都市部と地方の受験環境の格差も考慮し、慎重に議論する必要がある。
- 民間の資格・検定試験を新規に課すことによって、受験者の経済的負担が従来以上にかかってくる点について、懸念がある。

(2) 「大学入学希望者学力評価テスト（仮称）」（以下、共通テスト）の記述式の実施方法及び採点方法について

- 記述式問題導入は、獲得知識の評価偏重から思考力、判断力、表現力の評価問題の導入によって教育改革に資するという点で積極的推進に賛成する。
- 入学する学生の論理的思考力、構想力及び文章力の学力水準の維持のみならず、入学生の文章力・読解力の把握にも資するところが大きい。
- 入学前からの学びの確認や入学後の個別指導にも資する資料として活用され、入学前後の学びを大学であらかじめデザインして、円滑な高大接続による教育指導に供する事が期待できる。
- 記述式の導入に関する大学の採点（評価）の実施については、客観性・公平性を担保し、かつ大学の負担等へ配慮をいただきつつ、継続的に改良を加えることを前提としていただきたい。

(3) その他

- その他透明性、公開性を担保した上での、諸外国では通例となっている段階評価に基づいた新たな多面的な選抜方式の導入が必然的に求められよう。

2. 要望

- 公立大学にとって一番の問題点は、改革に伴う経費と人的サポートである。
- 入試業務は専門職を配置した専門部署が行うのが理想であり、教員の関与は最小限にとどめ、教育研究に専念できる環境をつくるべきである。
- 書類評価が重要になることから、調査書を的確に評価するためには、デジタル化の必要性を強く感じる。

その他、記述式導入に伴って大学への共通テスト成績提供日程の後ろ倒しが予定されていたことに関し、学校推薦型選抜及び総合型選抜における成績提供開始日から結果発表までの期日が短縮される予定であったことについて、複数の会員校から懸念が示されたことを申し添える。

(参考) 個別試験における記述式試験の実施状況についての概要

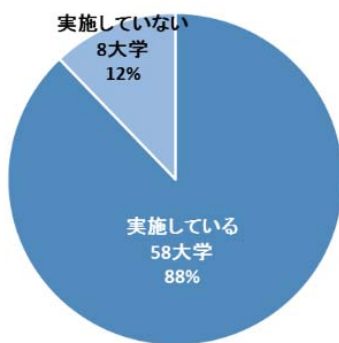
一般社団法人公立大学協会

「高大接続システム改革及び入学者選抜における記述式試験の状況に関する照会」への回答（抄）
平成 28 年 12 月 19 日・66 大学より回答あり

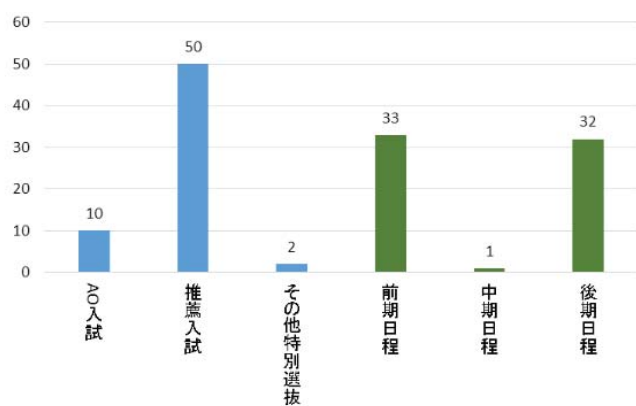
1. 小論文試験の実施について

「小論文試験の実施状況及び実施している試験区分」について結果は以下のとおり。

小論文試験の実施状況

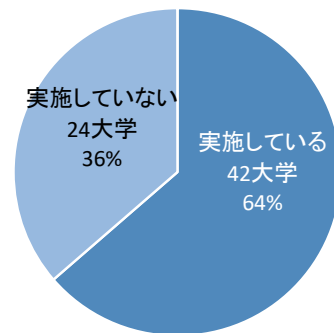


小論文試験を実施している試験区分



2. 小論文以外の科目における記述式試験について

小論文以外の科目における記述式試験の実施状況について実施している大学数は 42 (64%)、実施していない大学数は 24 (36%) である。



記述試験を導入している科目及び大学・学部数について、国語、英語、数学、総合問題を集計すると、最も多く導入されている科目は英語（前期日程）で、28 大学 58 学部が実施。

	前期日程	中期日程	後期日程
国語	12大学 22学部	2大学 2学部	3大学 3学部
英語	28大学 58学部	6大学 6学部	8大学 12学部
数学	26大学 45学部	6大学 7学部	9大学 17学部
総合問題	9大学 11学部	なし	5大学 7学部

大学入試改革の行方

福岡県立大学 柴田 洋三郎
(前 大学入試センター 副所長)
(元 九州大学副学長)

参照: 日本経済新聞 令和元年9月30日18面
「大学入試改革の行方 偏差値から到達度評価へ」

大学入学者選抜の背景

- ◎ 学校教育制度の特性 社会・文化・歴史・時代風潮
- ◎ 履修主義 と 修得主義 (「農耕民族・狩猟民族」論)
- ◎ 2セクター + 2区分 国公立大 vs 私立大入試
一般入試 vs 推薦・AO入試
- ◎ 入試文化の特性 * 「入試風土」
 - ・ 定員厳格・大学の「独自試験」
 - ・ 過度公平性: 合点・一点刻み・教授会査定
 - ・ 「教育産業」の参入
- ◎ 評価: 絶対評価 と 相対評価 レベルか順位か 定員管理の厳格化
到達度テスト と 集団準拠試験 コンクール 検定・資格
- ◎ アドミッションセンター等の選抜研究機能
 - 入試専門家集団の形成 各大学での選抜・入学者の追跡
 - 入試追跡研究の限界: 選抜効果・スリット効果
 - 某大学での研究事例
 - 入試順位の識別機能 < 全学教育の弁別機能
 - 受験学力の信頼度 vs 目的・意欲の持続性

入試改革の論点整理

- 学力3要素 多面的・総合的選抜
- ◎ 「大学入学共通テスト」
 - 知識⇒思考力・判断力・表現力
 - ⇒記述式問題: 国語・数学
- ◎ 「大学入試英語成績提供システム」:
 - 「聞く・読む・書く・話す」の4技能
 - 民間の英語資格・検定試験 > CEFR準拠
- ◎ 個別選抜の新しいルール 『入試』⇒ 『選抜』
- 「主体性・多様性・協働性」評価 < 調査書・ポートフォリオなど
- ◎ 全入時代における『入試風土』 定員管理⇄学力担保
 - 集団準拠順位 VS 到達度把握
 - 総合点(一点刻み) VS 段階的評価

「大学入試英語成績提供システム」の 活用法と利点

- ・ 共通IDを入試センターに申請する
- ・ 受験年度の4月から12月までに2回まで受験可能
- ・ 学力に応じた資格試験を時期、会場から選択できる
- ・ 志願書類に共通ID記入⇒英語学力証明書の
 - 請求費用や添付が不要 (利用大学に成績請求手数料)
- ・ CEFRによる、標準化された英語学力の証明
 - (就学・定住Visaなどの公的資格の申請可能)
- ・ 共通テスト参加大学以外も利用できる
- ・ 総合型選抜や学校推薦型選抜での英語学力把握
に利用できる
- ・ (毛嫌いの理由は?)

公立大学入試の課題

「大学全入時代」

少子化、高校多様化に如何に対応するか。
現状、学力担保などに手間がかかる、

- ① 大学の機能分化
 - ・地域貢献・研究実績重視、大学院教育
 - ・学部教育軽減の風潮（教養課程の大綱化）
 - ・過重な入試業務の負担（学部・大学院・留学生）
- ② 分離・分割方式の課題
 - ・入試スケジュールの制約：
 - ・緊急事態対応
- ③ 「学力3要素担保・保障システム」など、
「**高大接続改革**」の今後の帰趨によっては、
入学者選抜システム全体の改編の可能性

各大学における取り組み課題①

個別大学・選抜デザインの再検討：

様々な制約条件（通達・協会ルール）の存在

- ・定員管理の厳格化
 - ・選抜日程の短縮
 - ・APと「学力の3要素」との整合性
- 3つの学力要素とその評価方式
- 「3学力」評価基準の透明化
⇒ 合否判定基準の説明責任（⇒APに依拠）
- ・多様な評価項目・段階的評価
 - ・素点加算方式 ⇔ 項目別段階的評価方式
 - ・総合点順位 ⇔ 多段階・多面的評価へ
（「多次元マトリックス方式」など）【補足③】
- ・選抜担当部門（アドミッションオフィス）の強化・実質化

各大学における取り組み課題②

- 「推薦・AO・一般選抜の**新たなルール**」
- ・実施要項：法令的制約と「協会ルール」が混在
 - ◎推薦・AO：国公私共通（各大学の選択）
 - ◎一般選抜 大学グループ間で棲み分け
 - ・私立大学 学部分立方式
 - ・国公立大 統一日程
現行**分離分割方式**の存続は？

共通テスト成績提供 ⇒ 短縮・後倒し
選抜日程・入学手続き ⇒ 前倒し

- ◎ 令和6年度に再度の改定が行われる：
令和3年から4年間は移行期、暫定的・試行的なもの
- ・ 数年間は混乱が続くことだろう（連続方式の教訓も）